

オンラインによる研修を効果的に活用した 中堅教員資質向上研修モデルの開発に関する研究

Study on development of training model for improving the quality
of mid-career teachers utilizing online training effectively

井 上 和 俊

Kazutoshi INOUE
教育総合研究所

(令和元年9月30日受付, 令和元年12月12日受理)

本研究では、オンラインを効果的に研修に活用し、大学、教育委員会が連携してこれからの学校教育を担う教員の資質能力を継続的に向上させていくことができるような研修プログラムを開発することを目的とする。具体的には、研修の質的向上や研修の効率化について、九州における教育委員会関係者への調査及び大学と教育委員会との連携事業による実践を通して、中堅教員の資質向上研修モデルの開発を行った。

キーワード：オンラインによる研修 動画コンテンツ 研修の質的向上 研修の効率化

1. はじめに

平成27年12月に中央教育審議会できりまとめられた「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申)」において、教員施策の重要性、学校を取り巻く環境変化、学び続ける教員、社会に開かれた教育課程とチーム学校等について以下のように述べられている。

- ・グローバル化や科学技術の急速な進歩、情報化、少子高齢化など社会が急激に変化する中、質の高い人材育成が不可欠である。こうした人材育成の中核を担う学校教育における教員の資質能力を向上させることが重要である (p.2)。
- ・近年の教員の大量退職、大量採用の影響等により、かつてのように先輩教員から若手教員への知識・技能の伝承をうまく図ることのできない状況がある。特に、若手教員を指導し得るミドルリーダー教員の資質能力の育成のための環境整備等は急務である (p.3)。
- ・平成24年8月の中央教育審議会答申では、

教員自身が探究力を持ち学び続ける存在であるべきであるという「学び続ける教員像」の確立を提言していることから、教員自らが自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことが必要である (p.4)。

・教員が多様な専門性を持つ人材等と連携・分担してチームとして職務を担うことにより、学校の教育力・組織力を向上させることが必要であるが、その役割の中心を担う教員一人一人がスキルアップを図り、組織の一員としてその役割に応じて活躍することができるようにすることとそのための環境整備を図ることが極めて重要である (p.6)。

また、「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について(答申)」(平成31年1月)において、「膨大になってしまった学校及び教師の業務の範囲を明確にし、限られた時間の中で、教師の専門性を生かしつつ、授業改善のための時間や児童生徒に接する時

間を確保できる勤務環境を整備することが必要である。」(p.7) と述べられ、学校における働き方改革について提言がなされている。

こうした状況下において、オンラインを研修に効果的に活用した研修モデルを開発することは、国及び各県教育委員会における重要な課題といえる。

2. 研究の目的

本研究では、本学教職大学院と福岡県教育委員会との連携事業を活用し、中堅教員資質向上研修において研修コンテンツを活用した研修モデルを開発する。

そこで、まず、九州の教育委員会における基本研修及び職能研修におけるインターネットを活用した研修（オンライン研修）の実施状況について調査研究を行い、効果的な研修モデルの開発への示唆を得る。次に、福岡教育大学教職大学院と福岡県教育センターとの連携事業において研修モデルを開発する。そして、開発した研修モデルを基にして福岡県教育委員会では実施される他の研修におけるオンラインを活用した研修モデルを福岡県教育センターと共同で開発することを目的とする。

3. 研究の実際

3.1 九州地区の教育委員会における基本研修及び職能研修におけるインターネットを活用した研修（オンライン研修）の実施状況の調査研究

【調査目的】

九州各県及び政令指定都市教育委員会における研修の質的向上及び研修の効率化に向けた研修実施状況を明らかにする。

【調査方法】

九州各県及び政令指定都市教育委員会に対し、次の（調査1）～（調査6）の質問紙調査を実施した。

- （調査1）基本研修や職能育成研修におけるインターネット等を活用した研修（オンライン研修）の実施状況について
- （調査2）現在取り組まれているインターネット等を活用した研修（オンライン研修）の主な目的に関する調査
- （調査3）教育委員会で利用している研修システム等の種類について
- （調査4）制作・提供（配信）しているコンテンツ数や研修（講座）数について
- （調査5）インターネット等を活用した研修が有

効と思われる研修について

（調査6）下記の内容においてインターネット等を活用した研修が有効と思われるもの

【実施期間】

平成30年6月上旬～6月下旬

3.2 調査結果

（調査1）基本研修や職能育成研修におけるインターネット等を活用した研修（オンライン研修）の実施状況について（県教委10、政令市教委3計13）

番号	選択肢	合計
①	既に実施	8
②	現在は実施していないが、H31から実施予定	0
③	検討中	2
④	H31は実施する計画はない	3

※①既に実施の場合の開始年度

A教委…H30～、B教委…H25～、C教委…H24～、D教委…H28～、E教委…H30～、F教委…H28～、G教委…H30～、H教委…H28～

（調査2）現在取り組まれているインターネット等を活用した研修（オンライン研修）の主な目的に関する調査（県教委6、政令市教委3計9）

教育委員会	インターネット等を活用した研修の主な目的
A	○中堅教諭等資質向上研修の校内研修において、「講話等」の一つとして教職員支援機構のオンライン講座を選択可能としている。受講者自身の課題に応じた選択が可能であり、専門家による質の高い講義の視聴、校内の職員に講師を依頼する負担軽減を目的としている。
B	○【遠隔授業】教育センターと県内の高校を結び、若手教職員の指導等の教員研修に活用する。離島部の県立学校で免許外教科担当の授業をサポートすること等により、高い専門性をもった教師の授業を提供する。 ○【公開講座の配信】著名な講師の話をライブ配信することで、出張することなく学びを深める機会を提供する。
C	○集合研修の代わりに実施することで、現場を離れることの精神的負担や移動時間などの負担を減らすため。
D	○オンライン研修という位置づけではないが、インターネットを活用した以下の取組を実施している。 ○県教育庁チャンネル…2010年5月から県教育委員会がYouTubeに専用チャンネルを新設したもの。県内の学校現場の取組状況、学校

	現場の先生の横顔，子どもたちの活躍，地域の支援の様子など，特色ある取組や地道な取組などを動画で紹介するもの。取り組み背景や継続のコツ，課題等を加え，動画を見た学校関係者が応用できるように工夫している。 ○「シリーズ授業まるごと！」学力向上支援教員・指導教諭らによる優れた授業動画を配信。 ○教育センターのホームページ内で，研修資料を配信。
E	○一度に多くの教職員に情報を伝え，県内すべての学校に情報を周知・徹底 ○教職員の子どもと向き合う時間の確保 ○旅費の削減
F	○多くの離島を抱えているため，離島の学校に勤務している先生方を中心に，研修の機会を確保する手段として活用している。
G	○「教員の人材育成」と「教員の子どもと向き合う時間の確保」という相反する事項の達成を図るため。
H	○校外研修に係る時間的な負担を軽減するため。
I	○臨時的任用教職員として，初めての学級担任となった者が対象。生徒指導や保護者対応など様々な事例問題を教育センター e ネットホームページからダウンロードし，校内で助言を受けながらその対応や解決策を考えることで，学級担任としての対応力の向上を図る。

(調査3) 教育委員会で利用している研修システム等の種類について(複数回答可)(県教委5, 政令市教委3 計8)

番号	選択肢	合計
①	テレビ会議	3
②	動画コンテンツのWEB配信	5
③	eラーニング研修	2
④	その他	2

※④その他

A 教委…公開講座の配信

B 教委…デジタル教材コンテンツのWEB配信，研修用動画コンテンツの作成

(調査4) 制作・提供(配信)しているコンテンツ数や研修(講座)数について(県教委5, 政令市教委3 計8)

教育委員会	コンテンツ数	研修(講座)数
A	0	0
B	-	3
C	352	10
D	64	3

E	0	※ H30は各地区・学校等の希望に応じて設定
F	9	33
G	8	1
H	10	1
計	443	51

※上記コンテンツにおける特徴的な研修内容について(県教委6, 政令市教委3 計9)

教育委員会	特徴的な研修内容
I	○【公開講座の配信】 著名な講師の講座を，離島部等の県立高へ遠隔システムを用いてライブ配信を行い学校にいながら学びを深められるようにしている。
J	○デジタル教材コンテンツ139，動画コンテンツ80，研修用ビデオコンテンツ133 ○各教科等に関するもの，情報教育に関するもの，特別支援教育に関するものなど ○研修用ビデオコンテンツは，従来の研修に取り入れて，いわゆる「ブレンド型」研修として実施している研修もある。 ○eラーニング研修は，5年経験者研修(小・中・県立)と中堅教諭等資質向上研修(小・中・県立)で1日分として実施。 ○オンライン研修は，新任校長研修(小中合同・県立)，新任教頭研修(小中合同・県立)で1日分として実施(小・中・県立)
K	○管理職研修等において，受講者に事前にWEB配信動画を見る課題を与え，研修に参加 ○テレビ会議Ⅰ(研修センターでの講師講話を他の2会場とつないで実施) ○テレビ会議Ⅱ(県外の講師講話をセンター会場で受講する研修)
L	○WEBにて事前に講話や演習の課題を放映し，集合時間を1時間程度遅らせる集合型研修を「WEB事前研修」としている。 ○WEB講話を視聴し，課題を作成・提出するのみの非集合型研修を「WEB全研修」としている。
M	○1年次研修における「子どもの健康管理」「学校給食と食物アレルギー」について
N	○本オンライン研修のために制作したコンテンツはないが，他課が制作しているコンテンツにリンクさせて利用している。

(調査5) インターネット等を活用した研修が有効と思われる研修について(県教委6, 政令市教委3 計9 ※複数回答可)

番号	研修	合計
①	初任者研修	5
②	中堅教諭等資質向上研修	3
③	2～4年目を対象とする若手研修	3

④	管理職研修	5
⑤	リーダー育成研修	1
⑥	採用前研修	4
⑦	養護教諭研修	1
⑧	栄養教諭研修	0
⑨	事務職員研修	1
⑩	悉皆研修	0
⑪	その他の研修	2

※その他の研修⑪

A教委 …各地区、学校が主催する研修

B教委 …臨時任用職員研修

※選択した理由について

教育委員会	調査5における回答番号とその理由
A	回答 (①②⑥) ○中堅教諭等資質向上研修の校内研修において、「講話等」の一つとして教職員支援機構のオンライン講座を選択可能としている。若い世代はインターネットの利用や動画コンテンツの視聴に抵抗感が比較的に少ないため有効であると考えます。
B	回答 (③⑤⑨) ○若手教員が自分の授業を遠隔授業としてライブ発信し、担当指導主事が視聴することで指導ができる。
C	回答 (②④⑦) ○表記した3つの研修は、特に研修者が現場から離れることが難しいと思われるので。
D	回答 (①④⑥) ○グループ協議などを必要としない、知識伝達型の研修内容が含まれているので。※数回実施するうちの1回を配信研修等に替えることが可能と考える。
E	回答 (①③④) ○教職員の子供と向き合う時間の確保 ○受講者の増大に係る会場確保（大量採用・大量退職）
F	回答 (③⑥⑪) ○離島をはじめ、遠隔地にある学校は小規模校が多く、テレビ会議システム等を活用した研修によって先生方が学校を離れずに研修に参加できるため、負担軽減を図ることができる。
G	回答 (①②④) ○できるだけ学校を離れる機会と時間が特定の対象者に増えないようにする必要がある。よって研修数が比較的に多い「初任者研修」「中堅教諭等資質向上研修」や、学校を離れにくい「管理職を対象にした研修」が有効であると考えます。

H	回答 (①④⑥) ○採用前研修の際に、採用候補者にデジタルコンテンツの仮パスワードを知らせ、4月を迎えるまでに「勤務について」「始業式までにすること」などのコンテンツを視聴して自己研修できるようにしている。
I	回答 (⑪※①②④)は行っていないが有効であると考えます ○研修者のニーズに合った研修ができる。 ○当該園・校の管理職と共に指導できる。 ○移動時間がないため。

(調査6) 下記の内容においてインターネット等を活用した研修が有効と思われるもの(選択肢の中から3つ程度)(県教委6, 政令市教委3 計12)

番号	研修内容	合計
①	学級経営	1
②	教科等授業	4
③	人権教育	1
④	特別支援教育	4
⑤	情報教育	3
⑥	危機管理	5
⑦	食育	1
⑧	生徒指導	2
⑨	組織運営	3
⑩	キャリア教育	2
⑪	その他	1

※⑪その他

A教委…教頭業務に関するマニュアル等

※現在の活用方法や有効と考える理由

教育委員会	調査6における回答番号とその理由
A	回答 (④⑥⑧) ○受講者自身の課題に応じた選択としており、分野は指定していない。特別支援や法的な内容等、専門講師が少ないと思われる分野で有効であると考えます。
B	回答 (②⑤⑥) ○事前に教職員支援機構等で配信されている動画を指定し、基本的な考え方等を視聴させることで集合する時間の短縮や効果的な内容の構築につながると考える。
C	回答 (③④⑤) ○表記した3つの研修は、特に知識の部分を中心に予習をしてから受講することで、研修内容を効果的に学べると思われるので。
D	回答 (⑥⑨⑩) ○グループ協議などを必要としない、知識伝達型の研修内容が含まれているので。

E	回答 (⑥⑨⑩) ○教職員の子供と向き合う時間の確保 ○受講者の増大による会場確保 (大量採用・大量退職)
F	回答 (②④⑧) ○現在は、離島をはじめ、遠隔地にある学校や地区を中心に、生徒指導や特別支援教育、教科指導等をテーマとした研修を実施しているが、運営方法等を工夫することで、可能性を広げることができると考える。
G	回答 (⑥⑦⑨) ○同じ動画等を数年活用することを考えると不易な内容を取り扱う研修でインターネット等を活用した方が有効であると考ええる。
H	回答 (①②⑪) ○教頭業務に関するマニュアル的な内容をコンテンツ化できれば、必要な時に繰り返し学ぶことができる。
I	回答 (②④⑤) ○授業においては、紙面より動画を観ることでより実践的に学ぶことが多い。

3.3 調査結果から得られる示唆

これらの調査結果から、すでにインターネット活用した研修(オンライン研修)を県教育委員会の半数以上が何らかの形で取り組んでいることがわかる。実施理由については、受講者自身の課題に応じた研修が可能であること、現場を離れることができない中堅教員等の時間的負担の軽減、旅費の削減など、現在の学校教育における実態を踏まえた取組であるといえる。また、利用しているシステムや制作しているコンテンツならびに、研修の対象(教員の職階、職位など)は様々であり、そのニーズは多いといえる。このことを踏まえて、大量退職・大量採用時代を迎えている今日、教職員の研修においてインターネットを活用した研修を効果的に活用していくことは、中堅教員をはじめとする教員の資質向上に向けた重要な取組であると考ええる。

4. 福岡教育大学教職大学院と福岡県教育センターとの連携事業における研修モデルの開発

3.3で述べたとおり、オンラインを活用した研修は、これからの研修において重要な研修形態の一つとなるものと考えられる。本節では、福岡県教育センターと教職大学院の連携講座として実施した中堅教員養成のための研修講座にて研修モデル(動画コンテンツ)の開発及び実践について述べていく。

4.1 連携講座について

- ①講座名「生徒指導・教育相談中核教員養成講座」 場所：福岡県教育センター
(目的) 生徒指導・教育相談活動実践のベースとなる心理学やカウンセリングの理論や実技及び組織的生徒指導、人間関係づくりに関する実践的な研修を深めることで、力量を高め、地域及び学校で生徒指導・教育相談を推進していく人材の育成に資する。
(期間) 平成30年5月21日から平成30年11月22日までの6日間
- ②研修受講者
県内小・中・高・特別支援学校の主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭(32名)
- ③計画及び内容(全6回)

回	月日	研修内容	備考
1	5/21	生徒指導と教育相談の理論	
2	6/28	心理的援助サービスの理論と方法	※事前課題提示
3	7/25	生徒指導と特別活動	※オンラインを活用した研修
4	8/22	予防・開発的支援の方法と評価	
5	9/28	カウンセリングの理論	
6	11/22	これからの生徒指導と教育相談	※事後フォロー

4.2 反転授業の考え方を取り入れた研修

現在の県教育委員会等で主に実施されている基本研修等の研修形態は、1日及び半日の集合研修が多い。また、初任者等若手教員の増加により主催者側の研修のべ日数が増え、会場や研修方法など効果的・効率的な研修の観点から工夫が求められている。そこで、中堅教員の資質向上のために、遠隔研修や動画コンテンツを取り入れた研修などモデルのメリットやデメリットについて検討し、ニーズやねらいに沿った研修形態を柔軟に検討することが必要であると考ええる。

森・溝上(2017 a)は、「反転授業(the flipped classroom / the inverted classroom)」とは、従来教室の中で行われている授業学習と、演習や課題として課される授業外学習とを入れ替えた教授学習の様式と定義される。具体的には、講義部分をオンライン教材として作成し授業外学習として予習させ、対面の教室、すなわち授業学習では、予習した知識・理解の確認やその定着、活用・探

求を共同学習などを含めたアクティブラーニングで行うことである。また、このような学習が可能になってきたのは、学校や家庭でコンピュータやインターネット等のICTが発達し一般的に普及するようになったことを挙げている (p.1)。

また、反転授業の火付け役で知られているバークマンとサムズ (2015) は、「反転学習はオンラインと対面を組み合わせたブレンド型学習の一形態としてとらえることができる」(p.7) と述べており、反転学習は特定の授業形式ではなく、「教師と生徒が顔を合わせる時間をどんなふうにするべきだろうか」(p.29) という課題に挑戦するものであると述べている。さらに、反転授業は、不要な宿題を増やすという誤解についても、「反転学習はビデオ視聴にかかる時間がわかるので、自宅学習の負担もあらかじめ把握できる。反転授業は、まずビデオで学習の基盤をつくり、授業でさらに深く学ぶことができる」(p.56) と述べている。

森・溝上 (2017a) は、反転授業ならではの特徴は多数あるが、その主なものとして、次の4点を挙げている (p.2)。

- ・学生は自分のペースで学習できる
- ・学生は繰り返しオンライン教材を視聴でき、理解をより確かなものにすることができる
- ・授業外学習時間が増加する
- ・対面教室でアクティブラーニングに多くの時間を割ける

これらの視点をもとに、研修コンテンツを開発し、この研修コンテンツを効果的に活用した研修モデルの妥当性を検討する。

4.3 動画コンテンツについて

研修モデルの開発にあたっては、研修権者である福岡県教育委員会と十分協議しながら、昨年まで実施されてきた研修講座内容を基本とし、その内容をさらに充実することを検討した。今回の研修モデルにおいては、反転学習の要素を取り入れた動画コンテンツを活用し、双方向性（インタラクティブ）をいかした研修として位置づける。また、動画コンテンツを開発する際、動画のもつ特性をいかすことで研修の効果を高めることをねらっている。動画を取り入れることで研修の効果をあげるとともに、研修が効率化できると考える。その理由として、人間は視覚、聴覚、触覚、味覚、臭覚の五感で外界の現象を捉えているといわれており、実際には90%を視覚と聴覚が占めている。そのため、動画コンテンツ活用した研修

モデルを開発することは、次の点からも大変意義のあることである。

- ・伝達事項については文章表現や口頭指示よりも、短時間で直感的に理解させることができる
- ・動画配信により講座（内容）への親近感を持たせ、理解を促進させる
- ・研修教材として一度動画を作成することで何回も繰り返し視聴が可能となり内容の定着につながる

さらに、研修モデルに反転学習の考え方を取り入れることで、動画コンテンツが学び手の好奇心を引き出し、学び（内容）を人間関係（対面協議）によってより深めていく重要な触媒の役割を果たし、深い学びへとつながることが期待できる。

また、オンライン研修を実施することは、教員のICTの利活用能力の育成やこれから求められる教職員の資質向上につながる大切な基盤になる。さらには、教員個々に応じた学びや学び直しにもつながる。

今回動画コンテンツの制作においては、限られた時間の中で最大限の効果を上げるということを大切に、3つのキーワードSSW Simple（簡単）・Speedy（速い）・Way（やり方）から整理した。それらをベースに受講者側・制作者側もそれぞれが3つのキーワードから、有用かつ現場で協働して活用できるコンテンツとはどのようなものか、研修権者と授業講師と協議しながら、コンテンツの制作を行った。

次の表1は、3つのキーワードを基に整理しまとめたものである。

表1 動画コンテンツ制作の3つの視点

3つのキーワード	受講者の視点	制作者の視点
Simple (簡単)	人に尋ねなくても簡単にわかりやすく取り組める	様々な端末から簡単にアクセスできる
Speedy (速い)	短い時間のコンテンツなので隙間の時間を活用して素早く何度でも視聴できる	1動画は10分程度、短時間のコンテンツを複数準備する作成が望ましい
Way (やり方)	自分のスタイルに応じた形で研修が進められる	対話形式・課題提示形式などの研修が進められ、深められる内容構成の工夫

4.4 効果的・効率的な研修モデル

先行事例の検討や福岡県教育委員会との協議により、今後有用だと考えられる研修モデルとして次のⅠ～Ⅲの3つを提案する。

Ⅰ 反転学習の考えを取り入れ研修内容の充実と研修時間の短縮を目指す研修モデル

＜事前動画視聴＋集合研修＞

- ①事前動画視聴
- ②事前課題の作成
- ③集合研修への参加

☆期待できる効果

- ・事前に動画を視聴できることで研修に対するモチベーションが高まり、教員の学ぶ意欲の向上につながる。
- ・受講者が講義の中でアクティブ・ラーニング型の研修を実体験できる。
- ・研修時間にゆとりが生まれる。
- ・動画コンテンツを事前に学習することにより、当日の研修時間を短縮して実施できる。

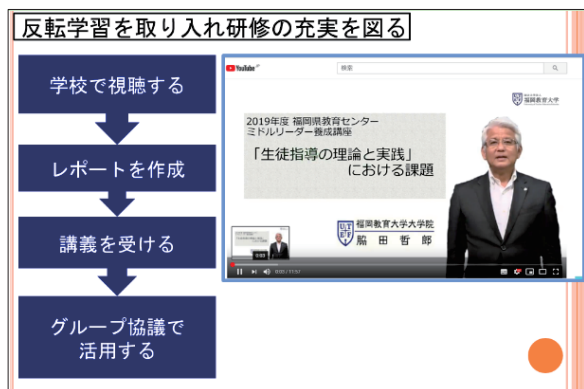


図1 事前学習取り入れた反転学習モデル

Ⅱ オンラインでの研修を代替研修と見なす研修の効率化モデル

＜学校等での動画視聴＋受講レポート研修＞

※集合研修は実施しない

- ①研修動画コンテンツ視聴
- ②受講レポート作成（A4用紙1枚程度）
- ③作成したレポートをもとに管理職への報告
- ④受講レポートをメールにて提出

☆期待できる効果

- ・学校を離れずに行なえるから子どもと向き合う時間が増えること、教員の業務時間を確保することにつながる。
- ・研修内容を繰り返し学習できるなど研修内容の定着につながる。

Ⅲ 研修権者（「指導主事」）の講義内容を支援のためのコンテンツ作成及び提供モデル

＜動画コンテンツの作成及び提供＞

- ①県教育委員会等へのニーズ調査
- ②指導担当者やコンテンツ制作者との打合せ
- ③ニーズに基づくコンテンツの作成
- ④研修会での利活用

☆期待できる効果

- ・教育委員会や教育センターが開催する研修に大学教員がもつ専門的な知見を活用することができる。
- ・大学は学校現場が求めているニーズを知ることができる。
- ・大学と教育委員会の連携が深まる。
- ・指導主事の研修会における講義内容等の準備にかかる負担軽減につながる。



図2 大学教員の専門的知見活用モデル

なお上記Ⅰ、Ⅱの研修形態については北九州市教育委員会等で実施されている研修等を参考に作成した。本研究においては、研修モデルⅠの形態で実施した。今回の研修モデルは福岡県教育センターで実施される初めての研修モデルであり、受講者のニーズや状況及び福岡県教育センターとの連携を十分に図りながら次のような実施体制で研修を実施した。

4.5 研修の実施体制

①目的の共有

オンライン研修を実施するにあたり、福岡県教育センターが実施する本研修に関する目的が達成されるよう以下の点について共通理解を図った。

- ・動画配信がいつでも、どこでも、簡単に受講者のニーズに応じて視聴できる。
- ・教材の内容は複雑になりすぎず、基礎的・基本

的な内容である。

- ・受講者の動画視聴の負担を考慮し一つのコンテンツの時間を15分程度とする。
 - ・事前課題（動画視聴）と集合研修が連続的であり、集合研修がアクティブな研修となる。
- ②動画コンテンツ（教材）の検討

共通理解を図った後、教材の検討に入った。動画コンテンツとして重要だと考えられるのは、受講者の意欲や知的好奇心を高めていくことである。そのため、ただ単に単調なスライドを流すだけ、講師の話だけがずっと続く、受講者の校種や職歴に合わず自分事として捉えることができないなどの要素をできるだけなくし、どの受講者にも事前課題として考える価値のある課題を脇田教授に検討いただいた。そこで、動画コンテンツ（教材）を次のような構成で作成することとした。

＜動画コンテンツ1＞特別活動と生徒指導についての概論（受講者全員が理解すべき基礎的・基本的な内容を講師が解説）

＜動画コンテンツ2＞事前課題 A4用紙1枚の作成（プランニングシートの作成）について（課題の意味、シートの作成方法、研修での活用などを講師が解説）

③撮影・編集

撮影は本学スタジオを使用し、撮影時間はできるだけ最小限の時間で行えるよう、以下のような手順で実施した。

- ・撮影前打合せ：1週間前にプレゼンテーション資料、講話原稿の確認、講師の服装、カメラ位置等について確認した。
- ・撮影当日：1コンテンツ（15分）の撮影に40分程度、当日は2コンテンツ撮影し約2時間要した。
- ・編集作業：動画編集、字幕挿入に1日を要した。

○受講者への周知・情報発信

この取り組みは、勤務時間の中で実施していただけことを想定していることから、受講者はもちろん学校長へも取組の趣旨や内容等を示した協力依頼文書を作成し、受講者の負担とならないよう周知を行った。また、福岡教育大学教育総合研究所HPにおいて、福岡県教育センターとの連携講座の特設ページを開設し、動画コンテンツだけでなく、研修内容に関連する教育情報などを掲載するなどして受講者の学びが深まる視点を取り入れるなど情報発信についても工夫を行った。

4.6 九州地区教員養成・研修研究協議会での協議

平成30年7月に開催した九州地区教員養成・研修研究協議会において、このオンライン研修モデルについて、教育委員会関係者、大学関係者等と協議を行った。その中で福岡県教育センターで活用する研修モデルについて提案し、教員研修におけるオンライン研修の有用性について議論を行った。各教育委員会の指導主事や大学等から貴重な意見が述べられたり各県で実践している取組について報告があった。主な内容は以下のとおりである。

- ・動画コンテンツを利用することで研修時間を数十分削減できることは良いことであり、欠席等への対応も可能となる。
- ・研修体系全体を見直しWEB研修に適しているもの集合研修でないといけないものを整理する必要がある。
- ・WEB研修の実施方法を定めておかないと、昨今の「働き方改革」の流れに逆行することになるのでは。逆に負担がかかるのではないか。
- ・離島に勤務されている先生方は研修の機会が少ない。そのために、TV会議システム等を導入している。

5. 結果と考察

5.1 オンライン研修受講者への質問紙調査①

5.1.1 調査①の概要

【調査名称】オンライン研修を活用した研修に関する受講者アンケート

【調査対象】福岡県教育センター専門研修「生徒指導・教育相談中核教員養成講座（第三回）」受講者（小・中・高等学校の教諭・主幹教諭・養護教諭）（32名）

【調査期間】平成30年7月～平成30年8月

【調査方法】インターネットを活用した調査

【回収率】96.8%

5.1.2 調査①の結果

①事前配信動画を主に視聴した曜日はいつですか。

動画を視聴した曜日	人数	%
月曜から木曜	13	41.9
金曜	8	25.8
土日祝	10	32.3
合計	31	100.0

②動画を視聴した主な時間帯はいつですか。

動画を視聴した主な時間帯	人数	%
8時30分以前	1	3.2
8時30分から12時	5	16.1
12時から17時	8	25.8
17時以降	17	54.8
合計	31	100.0

③動画を視聴した場所はどこですか。

動画を視聴した場所	人数	%
学校	22	71.0
自宅	9	29.0
その他	0	0.0
合計	31	100.0

④視聴に使用した機器は主に何ですか。

視聴に使用した機器	人数	%
PC（学校）	21	67.7
PC（個人）	7	22.6
タブレット・スマートフォン（個人）	3	9.7
合計	31	100.0

⑤視聴した動画コンテンツは、事前課題作成に役立ちましたか

動画コンテンツは事前課題作成に役立ったか	人数	%
非常に役立った	24	77.4
まあまあ役立った	7	22.6
あまり役立たなかった	0	0.0
全く役立たなかった	0	0.0
合計	31	100.0

<記述内容>

○1回見ただけでは不十分でしたので3回から4回くらい視聴した。

○視覚的、聴覚的に情報が入ることで手に取るようにわかるからよかった。

⑥課題提示に関して教授によるインターネットを活用した動画説明はわかりやすかったですか。

教授によるインターネットを活用した動画説明はわかりやすかったですか	人数	%
非常にわかりやすかった	23	74.2
まあまあわかりやすかった	8	25.8
あまりわかりやすくなかった	0	0.0
わかりやすくなかった	0	0.0
合計	31	100.0

⑦インターネットを活用した研修は効果的であると思うか。

インターネットを活用した研修は効果的である	人数	%
非常に思う	17	54.8
まあまあ思う	10	32.3
あまり思わない	4	12.9
全く思わない	0	0.0
合計	31	100.0

<記述内容>

○個人個人で時間のある時に研修に取り組める。

○研修時間を短縮でき、効率がいい上に意欲が高まる。

○本研修の時間以外にもプラスαで学べるので良いと思った。

○自分の経験不足ですべてを理解できるわけではないが、事前に研修しておくことで講義でのお話をスムーズに理解することができたから。

○一時停止機能はとても助かります。ただ、質問や疑問が生じたときにその場では解決できないので、予習として最適だと感じました。

○アメリカの大学で研修を受けた時も多くの授業でオンラインの予習課題がでていました。

●わかりやすいが質問がある場合にリアルタイムに聞けない。

●いちいち全部見ないといけない。紙でよい。

●学校にもよるが私の学校では、インターネットがブロックされていて動画を見られず自宅で見ることができなかった。このアンケートも学校のパソコンからはつながらず、スマートフォンでやることになった。

⑧インターネットを活用した研修は効率的であると思うか。

インターネットを活用した研修は効率的である	人数	%
非常に思う	21	67.7
まあまあ思う	8	25.8
あまり思わない	1	3.2
全く思わない	1	3.2
合計	31	100.0

<記述内容>

○研修すべてをインターネットで行うことができれば非常に効率的だと思う。

○当日の研修時間が短縮されるのがよい。

○研修場所に行かなくても職場からでも参加できるから。

- みんなが課題を理解しているからスムーズに進む。事前に学んでいるから意欲がある。
- 講義の際にも説明がありますが、事前に取り組むことで研修に臨むモチベーションもあがると思います。必要があれば、質問等もメールで受け付けてくださるといこともありがたいです。
- 本研修内での説明時間の省略になり、仕事が多忙な中で、いつでも手軽に見られるから。
- 研修当日の効率は上がるが、準備段階でかなり時間が必要となるため効率的とは言えない。

5.1.3 調査①から得られた示唆

これらのことから、オンライン研修を行うことについて受講者からは概ねよい評価を得ることができた。また、受講者からのコメントをもとにオンラインを効果的に活用した研修の長所・利点と課題については次の点が挙げられる。

<長所・利点>

- ・事前に学習を行えることで、講義への意欲が高まる。
- ・講義内容の理解度が高まる。
- ・教材や動画を繰り返し学習できる。
- ・研修受講者が、同じレベルで研修がスタートできる。
- ・講義の時間が短縮され、協議する時間が増え、研修がアクティブ（受動的な態度から能動的な研修）になる。

<課題>

- ・事前学習時間の研修時間の確保
- ・オンライン研修へ理解や基盤整備が必要
- ・パソコンやネットワーク等の環境の整備
- ・現場の多様なニーズに応えるコンテンツの開発
- ・研修の質等の担保できるコンテンツの吟味
- ・教職員の ICT 技術の習得

5.2 研修実施者（福岡県教育センター）への質問紙調査②

5.2.1 調査②の概要

【調査名称】平成 30 年度オンラインを活用した研修についての指導者用アンケート調査

【調査対象】福岡県教育センター専門研修（中核教員養成講座）関係指導主事等

【調査時期】平成 31 年 2 月

【調査方法】メールによる質問紙調査（記述式）

5.2.2 調査②の結果

福岡県教育センターが研修権者として本研修モデルを実施し、運営側・指導者側の立場からオン

ライン研修についての見解を以下の①から③の視点から聴取した結果である。

①研修実施者としての視点

- インターネット環境が整っていれば、いつでも、どこでも内容を確認できるため、研修の効率化を図ることができた。
- 研修の概要、演習資料の作成手順を示したことにより、当日の研修内容の理解を深めることにつながった（研修の効率化と内容の充実）。
- 研修時間の短縮を可能にした。
- 視聴しての疑問等に即時対応できない。
- 視聴した受講者とそうではない受講者の習熟に差が出るのではないかと（注：H30 年度は全員視聴）。
- オンラインは、いつでも、どこでもという利点はあるが、あくまでも勤務時間内での研修を基本としているので、勤務時間内に研修可能な内容（課題作成も含む）にする必要がある。

②受講者側及び学校現場の視点

- オンライン研修は、自分の都合に合わせて、まとめて視聴したり、分けて視聴したりできたので、無理なく研修できた。
- 研修内容の概要を事前に知ることが、当日の研修内容の理解につながった。
- 事前課題（プランニングシートの作成）が出たが、直接的なやり取りができないので、作成上分からない点を相談できない。
- 放課後の会議、部活動等の指導から、勤務時間内に視聴することが難しい。

③研修コンテンツや環境（ソフトやハード）面の視点

- パソコンやスマートフォンなど様々な機器から視聴できることは有用である。
- 動画コンテンツを視聴し、事前課題を作成し研修に臨む反転学習の形態は、研修効果があがると考えられるが、受講者の負担と程度と効果のバランス等について、検討する必要がある。

5.2.3 調査②から得られた示唆

この調査②の結果から、オンラインを活用した研修は研修権者にとっても新たな研修モデルとして評価されていることがわかる。具体的には、今回のモデルを活用することで従来から行われてきた講義型（受動的）研修からアクティブ・ラーニング型（能動的）研修へとスムーズに移行できる。さらに、効果的・効率的な研修の観点から、

ミドルリーダーという次代を担う教員に対し、ニーズに応じた深い学びを提供することができることから価値があると考えられる。

他方、ICTやネットワーク等の環境が整うことが条件となっている。現在、文部科学省は新学習指導要領の実施を見据え「学校におけるICT環境の整備について（教育のICT化に向けた整備5カ年計画2018～2022）」を策定し、子どもの学習支援はもちろん、教員、校務における支援を推進している。このことから、ICT等を積極的に活用し、教育委員会と大学等が協力しながら、教員に対する効果的な研修モデルの開発が求められている。

6. おわりに

本研究を通して、オンラインによる研修を効果的に活用した中堅教員等資質向上研修モデルを開発し、一定の成果が得られた。このことは今後の教員研修の改善の可能性について一つの方向性を示している。現在の学校現場では中堅教員の果たす役割は重要であり、学力向上、人材育成など多岐にわたっている。そのため、中堅教員の資質・能力の向上は喫緊の課題である。

一方、学校で中心的な役割を担っている中堅教員は、多忙を極めていることも間違いない。だからこそ、これからの学校を担う中堅教員の資質・能力を効果的・効率的に育成していくための研修モデルの開発は重要である。教員の育成指標に基づいた資質・能力を高めていくためにも、時間という資源と個人のニーズに応じた実践的な研修をセットで行う本研修モデルは価値が高いと考える。学び続ける教員を支援する一つの役割を果たすと考える。

また、このオンラインによる研修を効果的に活用した研修モデルは、様々な職位等での研修においても活用できると考えられる。初任者研修や管理職研修等での研修モデルはどのようにあるべきか、オンライン研修の学校での研修時間をどのように確保するかなど、まだ取り組むべき課題も多い。さらに、オンラインによる研修の強みと集合研修のよさをどのように組み合わせるか、どのような動画コンテンツが必要なのかについては、教育委員会と大学がより綿密に協働して開発していくことが、学校現場のニーズに応えられると考える。効果的・効率的な教員研修の質の向上にむけ、私自身さらに研究を進めていきたいと考える。

謝辞

本研究においては、九州各県教委及び政令指定都市教育委員会関係者、大学関係者で組織する「九州地区教員養成・研修研究協議会」で協議を行い貴重な助言をいただいた。また、オンライン研修に関する企画や実施に際し福岡県教育センター及び福岡教育大学教職大学院教授脇田哲郎氏にご協力いただいた。ここに謝意を表す。

【参考文献・引用文献】

- 中央教育審議会（2015）. 「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」（平成27年12月21日）.
ジョナサン・バーグマン, アーロン・サムズ（2015）. 『反転学習』. オデッセイコミュニケーションズ.
ジョナサン・バーグマン, アーロン・サムズ（2014）. 『反転授業』. オデッセイコミュニケーションズ.
森朋子, 溝上慎一（2017a）. 『アクティブラーニング型授業としての反転授業－理論編－』. ナカニシヤ出版.
森朋子, 溝上慎一（2017b）. 『アクティブラーニング型授業としての反転授業－実践編－』. ナカニシヤ出版.
安達一寿（2007）. 「ブレンディッドラーニングでの学習活動の類型化に関する分析」. 『日本教育工学会論文誌』, 第31巻, pp.29-40.
マイケル・B・ホーン, ヘザー・ステイカー（2017）. 『ブレンディッド・ラーニングの衝撃「個別カリキュラム×生徒主導×達成度基準」を実現したアメリカの教育革命』. 教育開発研究所.
サウル・カーライナー（2013）. 『研修プログラム開発の基本～トレーニングのデザインからデリバリーまで～』. ヒューマンバリュー出版.
公益財団法人画像情報教育振興会（CG-ARTS）（2018）. 『入門マルチメディア [改訂新版]』. 画像情報教育振興協会.
山口明彦, 嶋基史, 小森保弘, 森三穂（2015）. 「『通信型研修』の開始と今後の課題」. 『福岡県教育総合研究所研究紀要』 第120号, pp.21-31.
北九州市立教育センター（2015）. 『平成30年度研修等案内』.

